

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470300460		
法人名	医療法人 英然会		
事業所名	グループホーム・み里		
所在地	中津市中央町1丁目8番36号		
自己評価作成日	令和4年11月28日	評価結果市町村受理日	令和5年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4470300460-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	令和4年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「みんなが、いつも笑っていられるように」の理念を基に、田園に囲まれた静かな環境の中で、そのらしさと馴染みの空間を大切に、笑顔あふれる毎日の生活を、ご家族や地域と共に支援を行い、安心して生き生きと生活が出来る環境作りを行っています。また入居者の健康管理については併設の診療所の主治医や看護師、また併設の介護療養型医療施設と連携し急変時の対応、重度化など終末期までの支援を行っています。コロナ渦で、ご家族や地域との関わりが減ってきていますが、窓越しでの面会や「み里たより」で日頃の様子や写真を配布し繋がりが途絶えないように支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所としての目標を具現化するためには何が最も重要かを常に念頭に置き活動の中で「日々笑顔で利用者に関わって行きたい」という思いから今回、法人の理念を基本とし、新しく事業所理念を職員で話し合い作成されています。利用者・家族との関わりも深く、家族会・運営推進会議を通じ意見や提案・利用者の代弁等積極的な意見交換が出来、出された意見はサービスの質の向上に反映されています。コロナ禍で外出支援が困難である為、毎月ホールでレクリエーションを行い、その写真は廊下に掲示するとともに、毎月家族へおたより(写真付き)で送付され、写真に写る笑顔に家族の安心となり、事業所への信頼となっています。同じ敷地内に法人の医療施設があり、緊急時や重度化・終末期において、医師・看護職員との連携があり、家族・職員の安心と信頼に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と各委員会の年間目標を玄関や職員の目につく壁面に掲示し職員全員が共有できるように取り組んでいる。また職員採用時はオリエンテーションにおいて資料を基に説明を行っている。	職員とともに新しく作成された理念を玄関や共用空間に掲示し、事業所の姿勢を家族や来訪者に示しています。会議で理念について話し合い意見交換を行う中で職員個々のケアを振り返り実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春に家族会を家族、地域の自治会・老人会役員の方を招いて花見を行ったり、夏には地域交流の夏祭りを実施していたがコロナ感染対策で中止し交流機会が減少している。	コロナ禍により以前のような地域交流は難しいですが、自治会に加入しており、市報・回覧板等で地域の情報を得たり、「法人だより」や運営推進会議にて地域へ情報発信を行っています。今年は地域のお祭りが開催され、「かさぼこ」が事業所玄関まで来てくれ、利用者も喜んでいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の地域掃除に参加したり公民館でのイベントに参加し認知症に対する理解や施設の紹介などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年同様、コロナ感染対策により書面による開催で対応しており、その際配布時に各会員の方や市、包括支援センターの方へ意見を求めている。	2ヶ月毎の運営推進会議ですが、殆んどが書面開催です。資料や議事録については関係者に送付し、サービス状況の周知に努めています。各委員からの提言を、次の運営推進会議に反映し、サービスの向上に役立てています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に運営上の相談やサービス提供などについて市の担当者に連絡を取り、指導や助言を受けており関係性は良好である。	市への各種報告や更新申請時には、利用者の現状を伝えるとともに、事業所の近況報告やコロナ感染対策の相談・指導を受け、スムーズな運営が出来るよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を実施し禁止の対象となる具体的な行為を掲示し全職員が意識を持ちケアに取り組んでいる。また職員採用時はオリエンテーションにおいて研修を行っている。	身体拘束・虐待の研修を年2回実施し、具体的な行為とその弊害について、正しく理解し認識を高めています。会議では、言葉掛け等細かいことも拘束に当たるとして、職員同士で積極的に意見交換を行い支援の向上に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例を用いて研修を実施し周知し施設内での虐待防止に努めている。また職員採用時はオリエンテーションにおいて研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度についての研修を実施し学んでいるが、実際に活用はできてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や初回面談、契約時に丁寧な説明を心掛けており、不安や疑問点を尋ね理解や納得を得ている。また重度化や看取りなど医療体制についても詳しく説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが意見が出ないため面会や電話時に尋ねている。また年1回満足度アンケート調査を実施し意見を聞き反映できるように取り組み内容を明記している。	自由な面会ができず電話やメールで近況を報告し、意見や要望を聴いています。毎月の「み里だより」3ヶ月毎の「法人だより」にて日頃の様子を知らせ意見を出し易い雰囲気を作り、その内容等は職員間で情報を共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや日々の業務の中で職員の意見や要望など聞き、月1回の運営会議で意見を出し合っている。	管理者は職員と話しやすい関係を築き、日常の業務や会議で提案や要望を聴き、運営会議で検討しサービスに活かしています。個別面談やストレスチェックを行い働き易い職場環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングで労働に関して勤務時間を変更したり法人での運営会議で給与の見直しなどを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を基に職員個々に対して技術やスキルの習得に向けて取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度グループホーム連絡会にオンラインで参加し他事業所と意見交換を行う機会があり自施設の取り組みの参考にさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや要望に傾聴を行い安心して頂きの確かなアセスメントを行い、本人にとって必要なサービスを提供し安心して安全な場を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えや要望に傾聴を行的確かなアセスメントを行い必要なサービスを提案し一緒に考えながら信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と良く話し合い、協力して頂き支援の提案や信頼関係を築きながら本人や家族にとって必要なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であると言う考えを共有し、本人の出来る事、出来ない事を把握し食器拭きや洗濯物干し畳みなどの家事の手伝いなどで職員と関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ渦で面会が制限されているが来訪時、窓越しや電話などで日々の暮らしの出来事や気付きを報告し、家族と情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で面会が制限されているが家族や友人など窓越しでの面会や電話、手紙などで関係は途切れないようにしている。また、外出行事でドライブに出かけ住み慣れた自宅周辺や良く出かけていた場所などを通してしている。	現在、馴染みの人や場所との関係継続は減っていますが、家族の協力で友人と窓越しの面会や外出行事でドライブをする際に、自宅や馴染みの場所に出掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲んでお互いの顔を見ながら食事をしたりレクリエーション活動を行い、また仲の良い入居者同士が自由に過ごせるように居場所や雰囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了されても相談に応じる旨を説明し安心して頂いています。また入院、入所先へ様子を見に行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を聞いたり、日常生活の会話で表情・態度・言葉などから思いや要望を読み取り職員間で話し合い介護計画立案時に反映させている。	入所時の情報に加えて、日々の生活の中から、知り得る細かな情報を職員で共有し支援に繋げています。入浴中や居室等で職員とゆっくり話す機会を意識して利用者の本音を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から生活歴、個性や価値観、生活習慣など細かく情報を収集しケアマネジャーを中心に職員全員が本人に全体像を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握に努めている。定期的にあセスメント・モニタリングを行い有する能力や課題や生活への思いについての現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心にモニタリングを行い、日頃の関わりの中で思いや課題などを抽出し、ミーティング時に職員全員で話し合いケアプランの作成に反映させている。	ケアマネジャーは利用者の希望や思いの把握に努め、家族の意向も来訪時に聞くよう心掛けています。介護記録を参考に、職員間で情報交換しながら、利用者本位の介護計画を作成し、3ヶ月毎のモニタリングで支援状況を評価し、6ヶ月毎にサービスの見直しに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から介護計画の見直しを行っている。また申し送りノートの活用や日々の業務内での申し送りなどにより職員の気づきの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の要望を、その都度確認し、その時々ニーズに応えることができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策のため、地域の方やボランティアの受け入れは行わなかったが、敬老会の祝い品など自治会より贈られてきたりし喜ばれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望される医療機関をかかりつけ医とし受診の支援をしている。また主治医へ日々の状態報告や指示受けを確実に年2回の健康診断を受けたりと医療機関との関係作りにも努めている。	利用者と家族の希望に沿った医療機関をかかりつけ医として継続したときは、通院の際家族の同行が無理な時は、職員が事業所の車で受診支援をしています 年2回の健康診断をもとに看護職員と情報共有し、適切な支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理については介護職と看護職の連携に努め、看護職員が必要な助言や指示を行っている。夜間は看護職員がオンコールにて緊急時対応と健康管理について相談、助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供書を速やかに提供出来る体制を取っている。入院先の各連携室や病棟との情報交換を積極的に行い利用者についての適切な処遇や退院に向けての支援をスムーズに行えるように話し合う機会を持つようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について入居時に施設として出来る事、出来ない事の範囲について本人、家族に説明し意向・同意の確認を得ている。状態の変化により、その都度、家族や主治医、看護職員と相談し支援に取り組んでいる。	終末期を迎えた利用者の家族と話し合いを持ち、夜間の対応マニュアル作成等において、職員全体で協力体制を図り、寄り添う介護の理念のもと、出来る事を最大限に行っています。家族と最期のひと時を、居室で迎えられる時は、主治医・看護職員と相談してより良い支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成している。施設内研修や緊急時対応マニュアルを作成し各職員に学び内容の把握などに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、水害時や夜間想定などの訓練を行っている。地域の方にも協力を依頼している。消防署が近くにあり消火より避難を優先する様に指導を受けている。	自力歩行困難者や車椅子利用者も多く、様々な災害時に対応出来るよう、年に2回防災訓練を実施しています。持ち出し品の確認訓練・垂直避難訓練・簡易担架作り等も全職員で指導を受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修などで接遇について学び、尊厳を持った関わりに努めている。個人情報保護については入社時に説明を行い誓約書を提出して頂いている。	利用者の人格の尊重を大切に、接遇時の言葉かけもその方に合った個別対応を心がけて支援に努めています。特に個人情報についてのプライバシー遵守は、事業所のコンプライアンスを整えて対応策を講じています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中から利用者の意思決定を持つケアに努めている。利用者によっては選択しやすい方法で自己決定が出来るように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは大まかに決めているが出来るだけ入居者の意向や気分に合わせて、その人のペースに合わせて支援をしている。行事やレクリエーションなども無理な参加は勧めず自己決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選ぶ事が出来る方は選んで頂いている。ヘアカットについては2ヶ月に1度、訪問理美容を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に利用者と一緒に献立を読み上げ楽しみを持って頂き、食後は食器洗いや拭きを皆で行っている。誕生日はリクエスト食を取り入れるなど特別食として喜んで頂いている。	季節の食材を用いて、利用者のリクエストを参考に朝食・昼食・夕食の全てを、施設内で作って供しています。くつろぎの雑談中に、お寿司やから揚げ、ハンバーグ等を希望する利用者の思いに応じて食事を楽しむ時間となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に残し必要な栄養、水分の確保が出来る様に支援をしている。利用者の嚥下や摂取状態に合わせて食事形態などを変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。不十分な方や困難な方については一部介助や全介助を行っている。うがいが困難な方などはガーゼやスポンジブラシを使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンや有無などを把握し声かけ誘導を行いトイレでの排泄を促している。1日(24時間)の排泄状況は記録し全職員が把握出来るようにしています。	排泄チェック表で、利用者の排泄パターンを把握・声かけして、トイレ誘導を行っています。1時間に1度の声かけには拒否の利用者も何人かおられますが、寄り添う介護を心がけ負担のかからないよう、排泄の自立支援に努めています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や水分摂取で便秘の解消に努めている。排便困難な方には緩下剤でコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3日入浴を実施している。身体機能の状況に合わせて介助や見守りを行いマンツーマンで時間にゆとりを持たせ入浴を楽しめるように支援している。体調や気分の関係で入浴が出来ない時は時間や曜日を変更し対応している。	入浴は、週に3回食後に行っています。入浴がゆつくりと楽しめる時間となるよう、利用者の体調や身体機能に合わせて支援をしています。入浴拒否の時には、時間や曜日を変えたり、顔や足をホットタオルで清拭するなどして対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な運動や活動を取り入れメリハリの生活リズムを作る事が心がけ夜間の安眠につなげている。また昼寝が習慣になっている方には声かけし休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬剤情報をファイルし薬品名や作用などが確認できるようにしている。内服薬に変更があった場合は申し送りノートや日々の申し送りで症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や職歴などの情報を基に、やりがいや喜びを感じて頂く事の出来る役割や活動を心身状態に合わせて取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い時は施設周辺を散歩したり希望があればドライブに出かけるなど行っている。また季節に合わせて車で外出を行っている。コロナ感染予防のため家族や地域での外出支援は控えて頂いている。	コロナ過のため通常の外出は制限されていますが、希望する利用者の声に応えるため、感染対策を行った上で、車から山国川の沿線の景色を眺めたり、月に一度は天気の良い時に事業所の周りの花壇の手入れの手伝いなど、気分転換になるよう外出支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で一括管理を行っており必要時は職員が代行して買い物を行っている。買い物の詳細や残金額などは定期的に家族へ報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけたり家族からの電話を取り次いだりして本人と話ができるようにしている。手紙や写真が送られてきた場合は読み居室に貼っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアに季節に合った植物や花を飾り、利用者と一緒に使った季節ごとの創作作品を壁に飾るなど季節が感じられるように配慮している。感染対策として換気を行いつながりながらも室内温度などを調整している。	一日の殆どの時間を過ごして頂く共用空間では、感染対策のための換気や室内の温度管理、利用者が使用する器具や手すり等の衛生管理に十分な配慮をしています。壁面には折り紙等で季節の行事をデザインした作品を飾る等、居心地の良い楽しめる共用空間となるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮してテーブルの席を配置している。活動時も親しいグループで楽しむことができる環境作りを行っている。1人になりたい時などに離れた場所にソファがあり体調により休めるようにフロアにベッドも設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談しながら使い慣れた物、好みの物を持ち込まれ居心地の良い様に配慮しているが、心身状況により危険と判断される方については相談の上、シンプルな部屋となっている。	入所時に家族と話し合いを持ち、利用者の要望や使い慣れた馴染みの物を持って来て頂いていますが、心身状況の変化によって安全面で問題が生じた場合には、相談の上で出来るだけシンプルな居室になるよう支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、居室などの場所が分かりやすい様に大きな字で貼り、個々の残存能力を活かしたケアを心がけ安全に配慮しながらも自立した生活の支援を行っている。		